別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｱﾝｼﾞｮｳｶﾞｸｴﾝ 学校法人　安城学園							
フリガナ 大学の名称		ｱｲﾁｶﾞｸｾﾝﾀﾞｲｶﾞｸ 愛知学泉大学　(Aichi Gakusen University)							
大学本部の位置		愛知県岡崎市舳越町字上川成２８番地							
大学の目的		「建学の精神」の実践を通して、創立者が目指した経済的・政治的・文化的に自立できる社会人を育成することによって、地域と国際社会に貢献することである。							
新設学部等の目的		社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を養成することです。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	家政学部 [Faculty of Home Economics]	4	40	ー	160	学士 (家政学)	令和２年４月 第１年次	愛知県岡崎市舳越町字上川成２８番地	
	ライフスタイル学科 [Department of Life Style]	4							
	計								
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		家政学部　家政学科 管理栄養士専攻（廃止）△80 家政学専攻（廃止）△40 こどもの生活専攻（廃止）△70 ※令和2年4月学生募集停止 家政学部管理栄養学科　（８０）　（平成３１年４月届出） 家政学部こどもの生活学科　(70)　（平成３１年４月届出）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	家政学部ライフスタイル学科	６６科目	２９科目	２０科目	１１５科目	１２４単位			

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	家政学部ライフスタイル学科	5人 (5)	0人 (0)	3人 (3)	0人 (0)	8人 (8)	2人 (2)	34人 (34)	
		家政学部管理栄養学科	6 (6)	5 (5)	4 (4)	1 (1)	16 (16)	5 (5)	20 (20)	平成31年4月届出
		家政学部こどもの生活学科	6 (6)	2 (2)	5 (5)	0 (0)	13 (13)	2 (2)	22 (22)	平成31年4月届出
		計	17 (17)	7 (7)	12 (12)	1 (1)	37 (37)	9 (9)	76 (76)	
	既設分		() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	
		計	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()	
	合計		17 (17)	7 (7)	12 (12)	1 (1)	37 (37)	9 (9)	76 (76)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	13 人 (13)	0 人 (0)	13 人 (13)	
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図書館専門職員	1 (1)	3 (3)	4 (4)	
	その他の職員	2 (2)	2 (2)	4 (4)	
	計	16 (16)	5 (5)	21 (21)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	0 ㎡	6,108 ㎡	0 ㎡	6,108 ㎡	共用は、愛知学泉短期大学
	運動場用地	0 ㎡	30,221 ㎡	0 ㎡	30,221 ㎡	
	小計	0 ㎡	36,329 ㎡	0 ㎡	36,329 ㎡	
	その他	0 ㎡	16,315 ㎡	0 ㎡	16,315 ㎡	
	合計	0 ㎡	52,644 ㎡	0 ㎡	52,644 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	6,816 ㎡ (6,816 ㎡)	12,125 ㎡ (12,125 ㎡)	7,158 ㎡ (7,185 ㎡)	26,099 ㎡ (26,099 ㎡)	共用は、愛知学泉短期大学

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	22 室	10 室	14室	6 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0 人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	家政学部ライフスタイル学科	8 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	家政学部 ライフスタイル学科	63,684〔3,461〕 (60,484〔3,451〕)	470〔110〕 (470〔110〕)	1〔 0 〕 (1〔 0 〕)	1,361 (1,301)	938 (938)	0 (0)	学科単位での特定不能のため大学全体の数
	計	63,684〔3,461〕 (60,484〔3,451〕)	470〔110〕 (470〔110〕)	1〔 0 〕 (1〔 0 〕)	1,361 (1,301)	938 (938)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	1,654㎡	224	171,690	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	3,762㎡	該当なし	

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－	－	※図書購入費及び設備購入費は届出学科全体
	共同研究費等		－	－	－	－	－	－	
	図書購入費	6,134千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	－	－	※図書購入費にはデータベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
	設備購入費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	－	－	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,418千円	1,138千円	1,138千円	1,138千円	－千円	－千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等

既設大学等の状況	大学の名称	愛知学泉大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	家政学部 家政学科	4	190	―	760	学士（家政学）	0.73	昭和41年度	愛知県岡崎市舳越町　上川成28番地	
	現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	4	―	―	―	学士（現代マネジメント）	―	平成23年度	愛知県豊田市大池町汐取1番地	平成31年度より学生募集停止

既設大学等の状況	大学の名称	愛知学泉短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	食物栄養学科	2	70	―	140	短期大学士（食物栄養学）	0.69	昭和25年度	愛知県岡崎市舳越町　上川成28番地
	生活デザイン総合学科	2	130	―	260	短期大学士（地域総合科学）	1.06	平成16年度	
	幼児教育学科	2	120	―	240	短期大学士（幼児教育学）	0.77	昭和54年度	

附属施設の概要	該当なし	

教　育　課　程　等　の　概　要

（家政学部ライフスタイル学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	教養分野	潜在能力の開発	1前	2			○								兼1	
		心理学	1前		2		○								兼1	
		人間関係とコミュニケーション	2前		2		○								兼1	
		社会学	3後		2		○					1				
		生活経済論	1後	2			○								兼1	
		日本国憲法	3前		2		○								兼1	
		生活学概論	1後	2			○								兼1	
		家族論	3前	2			○					1				
		情報リテラシーⅠ	1前		1			○		1				1		
		情報リテラシーⅡ	1後		1			○		1				1		
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	1前	1			○			5		3				
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	1前	1					○	5		3				
		未来へつなぐアウトリーチⅡ	2前		1				○							
		小計（13科目）	—	10	11	0		—		5	0	3	0	2	兼6	—
	保健体育分野	運動の科学	1前		2		○								兼1	
		体育実技	1後		1				○						兼1	
		小計（2科目）	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	外国語分野	英語	1前		1			○							兼1	
		英会話	1後		1			○							兼1	
		中国語	2前		1			○							兼1	
		ハングル	2後		1			○							兼1	
		日本語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
		日本語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
		小計（6科目）	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	兼3	—
	その他	単位認定A			1			○								
		単位認定B			1			○								
		小計（2科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼0	—
ライフスタイル学基幹科目群		ライフスタイル学基礎講座	1前	2			○			5		3				オムニバス
		ライフスタイル学演習Ⅰ	1前	2				○		1		2		1		
		ライフスタイル学演習Ⅱ	1後	2				○		2		1		1		
		ライフスタイル学演習Ⅲ	2前	2				○		3				1		
		衣生活論	1前	2			○								兼1	
		食生活論	1後	2			○			1						
		住生活論	1前	2			○			1						
		スタジオ入門	2後	2				○		5		3		2		
		インターンシップ論	2後		1			○		2						
		インターンシップ	3前		2			○		1						
		キャリアデザイン講座	3後		2		○			1						
		卒業研究	4通	4				○		5		3				
		国内研修旅行	1前	1				○		1		1				
		小計（13科目）	—	21	5	0		—		5	0	3	0	2	兼1	—

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	空間・情報デザインの科目群	カラーコーディネート	1後		2		○								兼1	
		服飾文化論	2前	2			○					1				
		ファッショントレンド	4前		2		○								兼1	
		ファッションコーディネート	2前		1			○							兼1	
		ファッション造形学	2後		2		○					1				
		アパレル科学	2後		2		○								兼1	
		アパレル科学実験	3前		2				○					1	兼1	
		ファッション造形実習Ⅰ	1後	2					○			1		1		
		ファッション造形実習Ⅱ	3前		2				○			1		1		
		住文化論	2前	2			○								兼1	
		住居管理論	3前		2		○								兼1	
		住宅計画	2後		2		○								兼1	
		インテリアデザインⅠ（住宅）	1後	2					○	1				1		
		インテリアデザインⅡ（商業施設）	3後		2				○					1	兼1	
		ベーシックデザイン	2前		2				○	1				1		
		デジタルデザイン演習	2後		1			○		1				1		
		ソーシャルメディア活用Ⅰ（写真）	3前		1			○		1				1		
		ソーシャルメディア活用Ⅱ（動画）	3後		1			○						1	兼1	
		スタジオA（空間・情報デザイン）	3通		4			○		1		1				選択必修
		小計（19科目）	—	8	28	0		—		1	0	1	0	2	兼7	—
	食品開発・マネジメントの科目群	化学	1前		2		○								兼1	
		生物学	1前		2		○			1						
		食品学	1後		2		○			1						
		食品学実験	2前		2				○	1				1		
		フードスペシャリスト論	3後		2		○			1						
		栄養学	2前		2		○			1						
		調理学	3前		2		○			1						
		調理学実験	3後		2				○	1				1		
		基礎調理実習	1前	2					○	1				1		
		フードコーディネート実習	2前		2				○					1	兼1	
		カジュアルクッキング実習（製菓・	2後		2				○					1	兼1	
		食品衛生学（食関連法規）	2後		2		○			1						
		食品衛生学実験	3前		2				○					1	兼1	
		食品加工学	2前		2		○			1						
		食品加工学実験	2後		2				○	1				1		
		世界の食文化	1後	2			○								兼1	
		地域と食文化	3後		2		○								兼1	
		食品機能論	2後		2		○								兼1	
		商品開発	3前		2		○								兼1	
		健康と栄養	4前		2		○								兼1	
		スタジオB（食開発）	3通		4			○		2						選択必修
		小計（21科目）	—	4	40	0		—		2	0	0	0	2	兼6	—

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ビジネス・地域活性の科目群	保育論（実習及び家庭看護を含む。）	2後		2		○								兼1	
		ジェンダー論	4後		2		○								兼1	
		消費生活論	4前		2		○								兼1	
		マーケティング	2前		2		○								兼1	
		生涯学習概論	4前		2		○								兼1	
		地域ブランド論	2前		2		○					1				
		地域の暮らしと生産	1後		2		○			1		1				
		家庭電気・機械及び情報処理	3後		2		○			1						
		ﾃﾞｰﾀ解析法（統計学を含む）	2前		2		○			1						
		リサーチリテラシー	1前	2			○					1				
		プレゼンテーション基礎	1後	1				○							兼1	
		ビジュアルプレゼンテーション演習	2後	1				○						1	兼1	
		イベントプロデュース演習	3前		1			○							兼1	
		流行論	2前		2		○					1				
		サブカルチャー論	3後		2		○					1				
		スタジオC（地域活性）	3通		4			○		2		2				選択必修
		小計（16科目）	—	4	27	0		—		3	0	2	0	1	兼7	—
	教職に関する科目	教育原理	1後			2	○			1						
		教職入門	1前			2	○								兼1	
		教育制度論	1後			2	○								兼1	
		発達心理学	1前			2	○					1				
		教育心理学	1後			2	○					1				
		特別支援教育論	2後			2	○								兼1	
		教育課程論	3前			2	○			1						
		家庭科教育法Ａ	2前			2	○								兼1	
		家庭科教育法Ｂ	2後			2	○								兼1	
		家庭科教育法Ｃ	3前			2	○								兼1	
		家庭科教育法Ｄ	3後			2	○			1						
		道徳教育の理論と実践	3後			2	○			1						
		総合的な学習の時間の指導法	3前			2	○			1						
		特別活動の指導法	3後			2	○			1						
		教育方法論	2後			2	○			1						
		生徒指導論	2後			2	○					1				
		教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。）	3前			2	○								兼1	
		進路指導論（キャリア教育を含む。）	3後			2	○					1				
		教育実習指導	4前			1			○	1		1				
		教育実習Ａ	4前			2			○	1		1				
		教育実習Ｂ	4前			4			○	1		1				
		教職実践演習（中・高）	4後			2		○		1		1				
		ボランティア活動（介護等体験実習）	3後			1			○	1		1				
		小計（23科目）	—	0	0	46		—		2	0	1	0	0	兼7	—
合計（115科目）			—	45	124	46		—		5	0	3	0	2	兼34	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

学位又は称号	学士（家政学）	学位又は学科の分野	家政関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：共通科目24単位以上（うち必修科目10単位,外国語分野から2単位、選択科目12単位以上）、専門科目96単位以上（うち必修科目37単位,選択必修科目4単位,選択科目55単位以上）合計124単位以上修得すること （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 資格要件；中学校教諭一種免許＜家庭＞　免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位，教科に関する科目34単位（必修），教職に関する科目33単位（必修），教科又は教職に関する科目（選択必修1単位以上） 高等学校教諭一種免許＜家庭＞免許法施行規則第66条の5で定める科目8単位，教科に関する科目34単位（必修），教職に関する科目29単位（必修） ※教職に関する科目は全て自由科目。 フードスペシャリスト　フードスペシャリストになるための必修科目24単位（必修） ※認定試験に合格する必要あり。 商品プランナー　商品プランナーになるための必修科目2単位（必修） ※認定試験に合格する必要あり。 スポーツインストラクター　スポーツインストラクターになるための必修科目3単位（必修） ※認定試験に合格する必要あり。 商品装飾展示士３級 ※認定試験に合格する必要あり。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

授　業　科　目　の　概　要

（家政学部ライフスタイル学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目	教養分野	潜在能力の開発	初年次教育として家政学部の教育目標と自己ビジョンを明確にする授業です。その内容は、教育目標に掲げられている四大精神（徳性）、社会人基礎力（行動）、pisa型学力（智性）について理解します。社会に出てからも自己の潜在能力を可能性の限界まで開発するための3つの挑戦(苦手への挑戦・上達への挑戦・未知への挑戦)について理解します。さらに、本学の建学の精神である「生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた鵬のような大局的な存在となること」について理解します。これらの教育目標を学修行動と大学生活に展開して学生個々の4年間の未来設計図を作成します。	
		心理学	人が生活の中で〝なぜヒトはこのように行動するのか？考えるのか？感じるのか？“を、心理学の基礎理論を概観しながら心と行動のメカニズムを科学的に解明しようとする学問である。社会生活や家庭生活で直面する人間のこころを心理学的にとらえ、どのように行動につながるかの基礎を学び、実際の生活に取り入れることを目指す。また、心理の科学的なメカニズムを基本に、社会生活、家庭生活および大学生活において、身近に発生するトラブル発生の原因とその解決案等についても学びます。	
		人間関係とコミュニケーション	普段あまり意識せずに行っている日本語を使ったコミュニケーションに対して、コミュニケーション学及び言語学の角度からアプローチし、私たちが使っている日本語やそれを使って行うコミュニケーションを客観的な視点から学ぶ。さらに、人間関係を構築、継続していく上で、コミュニケーションを自己と他者の間の双方向の情報、感情の分かち合いとして活用し、それを達成するために必要とされる能力として、受容と主張、言語と非言語、対話などにフォーカスした理論と体験ワークを行い、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーションについて学びます。	
		社会学	生活の中で発生する社会現象の実態、現象の起こる原因に関するメカニズムを解明しようとする学問である。地域社会を構成する家族、コミュニティなどの集団、組織、社会構造から社会現象と実態を理論的に学び、さらに社会現象と実態を生活の身近なテーマから「あたりまえ」を疑うこと、批判的に考察することによって、社会を構成するさまざまな要因を知り、社会学の知見を理論的・批判的に考察することによって、現在・そしてこれからの社会で生きていくために応用可能な力を身につけ、現在と将来の社会で生きていくための応用力を修得します。	
		生活経済論	個人や世帯の生活で営まれる経済活動の全般を論じます。生活を営む上で、収入を得る稼得、製品・サービスを購入する消費、また将来に備える貯蓄をします、また公共支出と呼ばれる、所得税・消費税などの税金、医療や介護サービス、さらに年金を得るための社会保険料等につき、負担と給付の関係等について、現在だけの問題ではなく、将来の生活を決める選択で、世代間の意識についても学びます。さらに、生活（家庭）経済を市民・生活者の立場から、生活の質、生活の豊かさ、生活を充実させるとは何か、それを実現するための社会・経済的課題は何かといった問題を、経済学、家政学、社会保障論をはじめとする多くの分野から総合して、経済学的な論理を通して学ぶます。	
		日本国憲法	日本国憲法の基本的な知識について、日本国憲法の制定から今日に至るまでに生じた様々な具体的憲法問題を紹介しながら解説をします。本科目では、自立した社会人として、一般教養・技能・常識に裏付けられた思考力を身につけるために、日本国憲法の基本的な知識を修得します。内容は、家政学部ディプロマ・ポリシーの「単位認定にあたって重視する」項目として挙げられている能力を備えた人材、すなわち、「他者を理解し種々の考えを受け入れることができる」「専門能力の基本となる社会にかかわる知識・技能を習得することができる」「自立した社会人としての教養を身に付けることができる」人材の育成に資することを日本国憲法を通して学びます。	
		生活学概論	家庭生活を中心とした人間の生活を扱う「生活学」　について学びます。社会的背景と生活実態を新聞記事、雑誌記事、生活統計などの文献資料から、現代生活の課題を発見し、生活のあり方、生活の質とは何か、豊かな生活とは何かについて課題解決への提案をします。さらに生活学・家政学の発達と生活全体を包含する生活学への発展過程を踏まえ、日本以外の生活学・家政学の動きを情報収集することにより、今後の生活学・家政学の方向性についても学びます。	
		家族論	家族のあり方の多様化、家族の機能の縮小に伴い、家族の機能の役割について、多くの課題が問われています。現代の家族の問題を家族を類型・分類、家族の発達及び家族成員のライフコース、家族の内部構造、家族機能と社会的支援、家族変動の観点から抽出し、その課題を解決していくために、私たち個人が社会の中でどのような存在であるのか、どのような役割があるのか、また家族とは個人にとってどのような存在であるか、どのような役割を果たし社会と繋がっているか等について家族を核ににして社会を学びます。	
		情報リテラシーⅠ	生活を科学する技術として、パソコン・情報機器は資料作成、情報発信の必須アイテムとなっています。また、パソコンを活用するテクニックは、様々な情報機器を操作する上でも基本であり、実社会においても常識となっています。この授業では、「パソコンは、身近な文房具」をモットーに、MicrosoftのWord、PowerPoint、Excelといったポピュラーなアプリケーションソフトを活用します。パソコンを使いこなすことより、専門知識・技術の修得の向上を目指し、パソコンを活用して気軽に資料やレポート、教材などを作成する基盤を修得します。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目	教養分野	情報リテラシーⅡ	専門知識・技術の修得を目指し、情報リテラシーⅠに引き続き、パソコンを使いこなすための技術と知識の基礎を学修します。この授業では、「パソコンを、もっと身近なツールに」をモットーに、情報リテラシーIで修得したMicrosoftのWord、PowerPoint、Excelの基礎をさらに専門知識・技術へと展開できるようWordによる文書作成、プレゼンテーション用PowerPointの作成、Excelを使って統計処理の方法、さらに高度なデータベースソフトAccessの活用方法についても修得します。	
		未来へつなぐアウトリーチスタートアップ	「未来へつなぐアウトリーチ スタートアップ」、「未来へつなぐアウトリーチⅠ・Ⅱ」は、本学の教育方針である「智・徳・行」を育成する共通科目として設置しています。「アウトリーチ」とは、「手を伸ばす／差し伸べる」ことを意味し、問題を抱えた人のところに積極的に出向いて支援することです。この科目は「未来へつなぐアウトリーチⅠ」の授業内容を理解して、活動をスムーズに取り組むために用意しています。「アウトリーチとボランティアの社会的意義」、「家政学の視点からの課題の発見・課題の解決（pisa型学力（知識の獲得・活用・解決する力）」、「四大精神『真心・努力・奉仕・感謝』」、「社会人基礎力」について理解します。さらにボランティア先を回遊調査し、現地の課題を発見して、課題解決の実施計画書を作成します。これによりボランティア精神、建学の精神、社会人基礎力の基本を学びます。	
		未来へつなぐアウトリーチⅠ	「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」で作成した実施計画案に基づいたボランティア活動に取り組みます。PDCA（P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正）サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住の生活活動を家政学の視点からボランティア先の課題を発見し、その課題解決にpisa型学力を活用します。また、ボランティア先の方と課題解決の活動をする中で四大精神の心を育て、社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を発揮することで、人が目的・目標を持って活動するために、何が必要であるかを学びます。	
		未来へつなぐアウトリーチⅡ	「未来へつなぐアウトリーチⅠ」では、ボランティア先の課題解決の方法、四大精神、社会人基礎力の発揮法について学びました。これを基盤として、1年生が取り組む「未来へつなぐアウトリーチⅠ」を円滑に進めることができるように支援します。「未来へつなぐアウトリーチⅡ」では、１年生のボランティア活動の目的・目標を到達するために、個々人がチームで働く力を引き出し、そのチームの成果が最大となるように支援するファシリテーター（リーダー）として活動します。そこで1年生メンバーの意見を引き出し、意見をまとめ、実践行動に結びつけるコミュニケーション力を修得します。１年次に修得した家政学の視点からの課題解決（pisa型学力＝知識の獲得・活用・解決する力）・四大精神・社会人基礎力をさらに育成します。	
	保健体育分野	運動の科学	運動は、生活の質を向上することを目的としています。健康の3要素は運動・栄養・休息であることは認識されています。運動習慣が健康な生活を営む上で果たす役割を理解し、健康の維持・増進および疾病予防のための健康作りができるように、運動生理的知識と技能を学びます。また、生活の質を高めるための生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、高血圧症、心疾患等）予防と運動との関連性を国内外の実証研究を提示して、運動がもたらす身体への生理効果について修得します。	
		体育実技	生活の質の向上を目指し、健康の維持と体力増進および疾病予防を目的としています。体育実技の持つ遊戯性、競技性、互助性、集団規則などの複合性に対する感受性を高めながら、運動が身体にどのような影響をおよぼしているかについて学びます。また、各種目の基本技術、ゲームを行うための基本フォーメーションやルールや技術を理解し、安全に活動するための方法を学びます。さらに審判を含めて集団でゲームを円滑に運営できるように取り組みます。これらの体育実技を通して、他者と協力しながら活動するためのコミュニケーション能力も修得します。	
	外国語分野	英語	英語4技能のうち、読む、書くの実践的な能力を身に付けます。英語を話したり、英文を読んだりする上でとても重要となる英文法を中心に学びます。実践的な練習問題や短い読解問題を通して、大学生が最低限知っておくべき英文法の基礎、英単・熟語、英語表現を助動詞、句動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来、能動態と受動態、条件と否定から学び英語の基本を修得します。教材は、本学の創立者寺部だい先生の自伝「寺部だい自伝　おもいでぐさ」英語版を教材とします。この教材を活用して、本学の教育の基本理念である建学の精神の生成過程も学びます。	
		英会話	英語4技能のうち、聞く、話すの実践的な能力を身に付けます。本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした英会話を実践します。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝の実践をロールプレイングを通して英語で話す練習を行い、基礎となる正しい発音、リズム、イントネーションを学び、英語で話す感覚を養います。また、英文法も併せて学び、練習問題を実施する中で聞く、話すを定着させ、生活に関わる地域社会の問題を会話することができるまで学びます。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目	外国語分野	中国語	中国語の4技能の読む、書く、聞く、話すの基本的な能力を身に付けます。本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした中国語を中心に学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝について、中国語で学びます。基礎となる正しい発音、リズム、イントネーションを学び、中国英語で話す感覚を養います。また、英文法も併せて学び、日常的に使われる単語（名詞・助詞・形容詞・動詞・副詞など）を覚えて、会話の場面に適用する力を身に付けると同時に、発音練習・会話練習も行います。さらに中国事情についても随時紹介し、受講者が中国に関心をもてるよう進めます。	
		ハングル	本講義では、ハングル語で本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとして学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝についても学びます。「ハングル」の文字体系（子音・母音・終声子音）を習得し、自ら読み書きができる。同時に簡単な会話や自己紹介ができる、また、日常的に使われる単語（名詞・助詞・形容詞・動詞・副詞など）を覚えて、会話の場面に適用する力を身に付ける。さらに文法においては「連体形・連結語尾・不規則用言（7種類の中で3種類を取り上げる）」を学び、難しい韓国語の表現を読み説く力を学修します。	
		日本語Ⅰ	これはCapilano大学からの留学生のための日本基本的文法のコースとして設置しています。コースは交換プログラムのための具体的な学校カレンダーに1週あたり１回実施できるようにセットされています。日本語Ⅰでは、本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした日本語を学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝の心を日本文化として学びます。さらに日本人の生活、社会問題等を文例として、日本語文法に慣れさせることを目的に実施します。具体的には読むこと、話すこと、書くことの4技能の初級レベルを修得します。	
		日本語Ⅱ	これはCapilano大学からの留学生のための日本基本的文法のコースとして設置しています。留学生個人個人の日本語レベルに対応します。日本語Ⅰで学ぶ本学の教育目標である家政に関する知識・技能をテーマとした日本語をさらに深く学びます。また、本学の四大精神である真心、努力、奉仕、感謝の心も同様に継続して学びます。この日本文化、日本人の生活、社会問題等をさらに追及してさらに読む・話す・聞く・書くの4技能を使い初級レベル後半から中級レベルの総合的な日本語を修得します。	
	その他	単位認定A	学習の手引き「『第６章　成績および単位認定』第19条の2、別に定める検定試験および資格取得における学生の成績については、教育上有益と認める場合は、本学部における授業科目『単位認定A、B』の履修とみなし単位を与えることができる」としている。 資格・検定の種類は、①英検　2級、②漢字検定　準1級、③日商簿記　2級、④全商簿記　1級、⑤その他　上記に相当する資格・検定である。	
		単位認定B	学習の手引き「『第６章　成績および単位認定』第19条の2、別に定める検定試験および資格取得における学生の成績については、教育上有益と認める場合は、本学部における授業科目『単位認定A、B』の履修とみなし単位を与えることができる」としている。 学部、学科が定めた講義・実習科目、産学官連携活動、高大連携活動、その他の１単位は講義15時間、演習は30時間、実験・実習は45時間とする。 専門学校で取得した単位、他大学で取得した単位、短大の既修得単位、海外研修単位とする。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ライフスタイル学基幹科目群	ライフスタイル学基礎講座	今年から始まる大学生活のサポート、初年次教育から始まります。「簡単な課題を考え、隣の学生と意見交換するペアワーク」、「4～5人でのキャンパス回遊調査」、「社会人基礎力の基礎を学ぶ」が序盤です。 中盤は、ライフスタイル学科で、どの様な学習が展開されるのか、将来どの様な職に就くことができるのかを、学科の全教員がオムニバスで授業します。 そして終盤では、全学で取り組んでいる社会人基礎力を、どの様に発揮させると課題解決につながるのか、4年後に向けて今から何をすべきなのかなど、キャリア教育を始めます。 〈オムニバス方式／全１５回〉 （龍田建次・丹羽誠次郎／７回） 「大学」を体験する、自分の居場所をつくる／社会人基礎力とは何か （西原麻里／１回） メディアリテラシーについて （龍田建次／１回） 生活を支える「耳」 （平岩暁子／１回） おしゃれを楽しむ意味 （森山三千江／１回） 現代日本の食生活とその問題点 （相原英孝／１回） 食べものと微生物 （山田陽平／１回） 学びを学ぶ （近藤茂明／１回） 「教える」という仕事 （丹羽誠次郎／１回） インテリアの入口	オムニバス方式
		ライフスタイル学演習Ⅰ	本科目は，学生一人一人が家政学徒として自分らしいキャリアを作るためのきっかけを与えることを目的としている。授業では生活の各事象を対象とした「見る」「聞く」「読む」等の複数の入力と「書く」ことをそれぞれ組み合わせた課題を設定し、学生各人の中で生活に対する「感性」を育みながら「書く力」を同時に獲得していくことを目指す。ライフスタイル学演習Ⅰでは「自分の生活」、「音環境」、「装い」をテーマにレポートライティングをおこなう。 〈オムニバス方式／全１５回〉 （丹羽誠次郎／５回） コンテンツ０「生活の豊かさとは何か？　私の暮らしを映すもの」 （龍田建次／５回） コンテンツ１「音を感じる」 （平岩暁子／５回） コンテンツ２「装うことがもたらす暮らしの豊かさ」	オムニバス方式
		ライフスタイル学演習Ⅱ	本科目は，学生一人一人が家政学徒として自分らしいキャリアを作るためのきっかけを与えることを目的としている。授業では生活の各事象を対象とした「見る」「聞く」「読む」等の複数の入力と「書く」ことをそれぞれ組み合わせた課題を設定し、学生各人の中で生活に対する「感性」を育みながら「書く力」を同時に獲得していくことを目指す。ライフスタイル学演習Ⅱでは「生活の記録」、「家政学」、「食情報」をテーマにレポートライティングをおこなう。 〈オムニバス方式／全１５回〉 （西原麻里／５回） コンテンツ３「手帳づくりから自分の生活を振り返る」 （山田陽平／５回） コンテンツ４「家政学会誌を読む」 （森山三千江／５回） コンテンツ５「正しく選ぶ、正しく食べる　機能性食品について考える」	オムニバス方式
		ライフスタイル学演習Ⅲ	本科目は，学生一人一人が家政学徒として自分らしいキャリアを作るためのきっかけを与えることを目的としている。授業では生活の各事象を対象とした「見る」「聞く」「読む」等の複数の入力と「書く」ことをそれぞれ組み合わせた課題を設定し、学生各人の中で生活に対する「感性」を育みながら「書く力」を同時に獲得していくことを目指す。ライフスタイル学演習Ⅲでは「学びと暮らし」、「食べものの安全」、「生活空間」をテーマにレポートライティングをおこなう。 〈オムニバス方式／全１５回〉 （近藤茂明／５回） コンテンツ６「『教育』の視点から生活を切り取る」 （相原英孝／５回） コンテンツ７「発酵することと腐ること」 （丹羽誠次郎／５回） コンテンツ８「すき間について考える」	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ライフスタイル学基幹科目群	衣生活論	本科目は、ライフスタイル学科における衣分野の学修の導入に当たる科目であり、人々の日常生活を衣の面から支援することのできる人材となるため、衣に関わる文化・成り立ち・着用・管理を通して、衣服と生活の関係を理解することを目的としている。 学修内容は大きく① 服飾の文化を知り、その内容を理解すること② 衣服の成り立ちを知り、その内容を理解すること③ 衣服の着用を知り、その内容を理解すること④ 衣服の管理を知り、その内容を理解することの４点である。	
		食生活論	食品の特性を知り、科学的な根拠に基づいた調理法を理解し、日常生活における基本的な調理技術を身につける。調理中の衛生管理から安全面にも気を配り、グループ内で協力して調理を行う作業手順を考えて、効率を図る技術も身につける。環境面にも配慮し、食材を残さない、洗浄する際に洗剤を使いすぎないなども考えていく。 [学修内容] ① 現代の食生活について考える、② 食品の加工技術について正しい知識を得る、③ 食品衛生について危機管理がおこなえる、④ 子どもに食生活が与える影響を考える、⑤ 地域、環境と食を考える。	
		住生活論	生活の器である私たちの「住まい」のかたちを規定している様々な要因について考えることから「住む」ことの意味を問い直していく。この学修は、人々の日常生活を住の面から支援することのできるようになるための基礎に位置付けられる。15週の授業では、まず、現在の私たちの住様式に大きく関わる近代以降の日本の住宅の変遷を概観したのち、家族が安全、快適に暮らすために住まいとまちに求められる基本的な条件を理解していく。また、今後さらに必要となる環境に配慮した住まいや多様な生活スタイルに対応できる住まいのあり方についても理解をしていく。	
		スタジオ入門	３年生で開講するスタジオA、B、Cにおけるプロジェクトの実施に向けての導入となる科目である。まず前半ではプレ・スタジオとしてグループで小さなプロジェクトに取り組み、そこで得た経験から、後半では３年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。実際的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学演習」をはじめとした授業で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかを考えていく。	
		インターンシップ論	3年次の「インターンシップ」に必要な準備を行う。社会や企業の動きと企業の目的や考え方を学び、ビジネス社会のルールやマナー、常識を身に付ける。また、企業活動の事例を学習し、企業の方からの講話を聞き、アドバイスをいただく。就職活動への心構えも養う。 [学修内容] ① 社会･企業と名何かを理解する。② 社会人として必要なマナーを身につける。③ 履歴書・エントリーシートを書くために自分を表現する意味での文章の描き方を身につける。④ 自己分析の方法を身につける。	
		インターンシップ	自らの専門、将来のキャリアに関連した実務を経験する。これにより、専門科目の学習効果を高めるとともに、実社会に即した職業観、職業意識を修得させる。実習期間は夏季休暇中の1～2週間で、事前指導、事後指導を行い、学習の定着と発展を図る。 [学修内容] ①実習企業を自ら調べ探す。② 自ら希望する企業で実際の仕事を体験する。 ③アルバイトでは、経験できない社員としての仕事を経験する。④大学での学習内容がどのような場面で必要なのかを知り、学習意欲を向上させる。	
		キャリアデザイン講座	この科目は学生個々人の卒業後のキャリアへの接続を支援するために設定されている。 授業は以下の内容によって構成される。大学卒業後の自分の方向性を明らかにし、目標の実現に向けて計画を立てて行く。社会で活躍するための心構えを養うとともに、自己分析を行い、自己の適性にあった職業選択を目指す。また。履歴書･エントリーシート対策、筆記試験対策、面接対策、ビジネスマナーなど、目標実現に欠かせない知識･技術を身につける。	
		卒業研究	4年間の学習の集大成として、積極的な取り組みを期待される。自分なりのテーマの発見が重要である。その事象がなぜ起きたのか、それがどんな問題を引き起こすのか、なぜ、そのような問題が重要であるのか、自分の一身上の問題として、じっくり考えてほしい。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)することが、本学科での卒業研究の目的である。	
		国内研修旅行	国内研修旅行では、衣・食・住の領域に関するさまざまな施設（博物館、美術館、資料館、企業など）を訪問する。施設での体験や、史料・文化財などの鑑賞をとおして、本学科でなにを学び、なにを目標とするのかを改めて考える契機とする。また後日、研修旅行で学んだ成果を発揮するための口頭発表をおこなう。 [学修内容] ① 研修先の情報や学修のポイントを調査する。② 研修の目的や学びたいことを明確にする。③ 研修先で各種の体験や鑑賞をおこなう。④ 研修先で学んだ成果を報告する。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	空間・情報デザインの科目群	カラーコーディネート	色の持つ物理的側面・心理的側面・デザイン的側面を講義形式による理論の説明と共に、カラーカードを用いた演習形式による指導を行い、カラーコーディネートの基礎を習得する。色彩に関する知識・技術を系統的に学ぶことにより、それぞれの目的によって客観的に色彩を使いこなせる実践能力を修得することを目的とする。 [学修内容] ① 色彩の本質を物理的な視点から理解する。② 色彩を感じ取る人間側について理解する。③ 色彩を組み合わせた場合の効果について理解する。	
		服飾文化論	これまで衣服は人間の生活と深く関わりつつ、社会や時代の要請によって変容を遂げてきた。この講義では、生活文化、社会状況などとの関係に着目しながら、日本および世界の服飾文化について理解していくことを目的としている。授業内では男女の衣服の差はなぜ生まれたか、富や権力の象徴であった近代までの服飾とそれによって育まれた染織文化などについて知り、それぞれが現代のファッションや生活に与えた影響についてを考察をすすめる。	
		ファッショントレンド	絶え間なく変化しているファッション業界の動向を交えながら、実践に即して授業を行う。はじめにファッション業界の仕組みや専門用語を学修し、アパレル産業への理解を深める。終わりにプレゼンテーションマップを作成してアパレル企業の実際を疑似体験する。 [学修内容] ① アパレル業界の流通の仕組みを学修する、② ファッション業界の職種と業務内容を学修する、③ アパレル企業の企業努力についって学修する、④ オリジナルブランドを考案し、商品企画する、⑤ オリジナルブランドの企画書を作成し、発表する。	
		ファッションコーディネート	ファッションアイテムの種類とデザインテイストの概要を理解したのちに、ファッションコーディネートの種類とテクニックを学ぶ。基本的な知識・技術を習得することから、コーディネート能力を養っていく。様々なファッションアイテムの組み合わせを通してバランス感覚を磨き、ファッションセンスを向上させる。また、毎時間の授業の中で最新のコレクション鑑賞を行い感性を磨く。この学修は、ファッションを通して自己を表現し、さらには多くの人々に新しい価値を提案するための基礎的な訓練となる。	
		ファッション造形学	衣服は人体に最も近い距離にあり、人が着装することにより完成する。このため、衣服の形の美しさは、複雑な人体の形状に衣服をどのように合わせるかによって決まる。この科目では、人体形状の特徴を知り、採寸やパターン作成の理論について理解する。また、和服と洋服の衣服構成法の違いや年齢に合わせた衣服の条件についても考える。 [学修内容] ① 人体の形状についての特徴や年齢差、男女差、動作による変化を知る、② 衣服構成法の種類、洋服のパターン作成の理論について知る、③ 和服の構成法、洋服との違いを知る、④ 乳幼児服、高齢者のための衣服、障害者のための衣服について考察する。	
		アパレル科学	本科目は、人々の日常生活を衣の面から支援することのできる人材となるために、繊維・糸・布の種類と性質や被服材料の性能などの被服の素材に関する知識を身に付けることを目的としている。 学修内容としては ① 繊維の種類を知り、その性質を理解すること② 糸の種類を知り、その性質を理解すること③ 布の種類を知り、その性質を理解すること④ 被服材料の性能を知ること⑤ 被服材料の仕上げ加工を知ること、の５項目で構成されている。	
		アパレル科学実験	本科目は、人々の日常生活を衣の面から支援することのできる人材となるために、「アパレル科学」で学んだ知識を基軸として、衣服やインテリア繊維製品の素材である繊維・糸・布を対象に、これらの成り立ちや性能、染色との関係を体験的に理解することを目的としている。 授業は① 染料の性質を知り、染色について考察すること② 繊維を知り、繊維・糸・布の成り立ちを考察すること③ アパレル製品の性能を理解し、これについて考察すること、により構成されている。	
		ファッション造形実習Ⅰ	被服製作を通して、人体とパターンの関わりを学び、被服造形に関する基本的な技術の習得をめざす。デザインにあった布地の選択、胴部原型の作図とパターン展開、基礎的な縫製技術、縫製機器の使用法を学習する。上半身衣服として半袖シャツ、各種基礎縫いの練習課題として小物（トートバッグ）を製作する。 [学修内容] ① 人体と衣服（パターン）との関わりを学び、原型作図をする。② デザインに合わせたパターン展開方法を学ぶ。③ デザインに合う布地選択方法を学ぶ。④ 縫製（ミシン・手縫い）に関する基礎的技術を習得する。	
		ファッション造形実習Ⅱ	平面構成衣服の特徴を理解し、和服裁縫の知識・技術を身につけるために、単衣長着（浴衣）を製作する。和裁の特徴である反物からの裁断方法を知り、本ぐけ、耳ぐけ、三つ折りぐけなどの縫製技術を修得して、伝統的衣服の成り立ちを理解する。和服のたたみ方、着付けも練習する。 [学修内容] ① 平面構成衣服(単衣長着)の反物からの裁断法を知る。② 和裁に必要な基礎縫いの技法（本ぐけ・耳ぐけ・三つ折りぐけ）を身につける。③ 和服の特徴を学び、和服のたたみ方や着付けの方法を知る。	

授　業　科　目　の　概　要

（家政学部ライフスタイル学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	空間・情報デザインの科目群	住文化論	住文化の変遷を学び、「小住宅の作図実習」、「住宅見学の現場実習」を通じ、「現代住宅の課題点」を理解します。また、「住文化の新たな展開」を学習することで、未来に向けた住文化のありかたを考察します。 [学修内容] ① 戦後日本を中心に住文化の概要を知り、説明出来るようになります。② 小住宅の作図実習を行い、簡単な設計図書の作図が出来るようになることを目的とします。③ 住宅見学の現場実習（グループワーク）を通じて現代住宅の課題点が考えられるようになることを目的とする。④ 社会問題を通じて住文化を考えられるようになることを目的とする。⑤ 未来の住文化について考えられるようになることを目的とする。	
		住居管理論	生活の器である住居を適切に管理し、快適で健康な生活を送るとともに、地域や地球の環境にも配慮した住まいが求められている。住居の管理を通じて、住生活そのものをより良く知り、改善していくために、日常的に心掛けるべきことを習得し、自らが実践していける力と、他者への支援ができる力を身につける。 [学修内容] ① 居の基本的知識を習得する。② 住居管理で考慮すべき事項を総括する。③ 具体的な管理の対象・方法が理解でき、管理の評価に基づく、次のステップに進む知見を得る。④ 自らの住生活を住居管理の観点から省察・改善できる資質を身につける。	
		住宅計画	住宅は、『衣・食・住』という言葉にあるように、生活の最も基本的なところを担っている。本来あるべき住宅は、どのようなものであるかを、この授業を受けて考えてみよう。住宅を計画するためには、必要な知識と共に、基本的な考え方を整理し、その考え方をわかりやすく見える化する必要がある。授業では、住宅に関する基礎知識を学ぶとともに、学外研修による最新モデルハウス及び住宅設備機器に関する情報を修得して、自らの考える将来住みたい住宅をかたちにする（スケッチする）方法を身につける。	
		インテリアデザインⅠ（住宅）	インテリアとは内部（空間）一般を指し示す言葉だが、この科目では住宅のインテリアを対象に授業を展開する。将来の自分とその同居人を架空のクライアントとして設定し、そのライフスタイルに合ったインテリアの提案を準備することを通して、インテリアを構成する各要素と各室空間の演出をするための基礎知識を修得していく。この学修では、人々の日常生活を住の面から支援することができるようになるために、１年前期「住生活論」で獲得した知識・技術を活用する方法を実践的に学ぶ。	
		インテリアデザインⅡ（商業施設）	この科目では小規模な商業店舗のプランニングとデザインを通して、商業施設に求められる空間的な条件とそれを解決するデザイン手法を学ぶ。１年次後期に学修した「インテリアデザインⅠ」と重ねて理解していくことで、ビルディングタイプ別に求められる条件の違いを明らかにしていく。また、３年次に体験した、スタジオのプロジェクト学修をさらに展開する場とテーマ設定することによって、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインの提案力を涵養することも目指す。	
		ベーシックデザイン	この科目では基礎的な造形感覚の訓練をおこなう。まず前半に設定した複数の課題から普段何気なく扱っている色や形、テクスチャーの性質を理解し、それらをコントロールする方法を学んでいく。後半では、設定したグループ課題に取り組むことにより表現の可能性を知り、ものの見方や発想の幅を広げていくことを目指す。 [学修内容] ① 基本的な造形要素の性質を知る。② 色や形、テクスチャーをコントロールしてイメージを表現する方法を学ぶ。③ アイデアを造形表現へ発展させる過程を経験する。	
		デジタルデザイン演習	この科目では、この科目では、ドロー系のソフトウェア（Adobe Illustrator）の基本操作を確認しながら、ベクターイメージの特徴を理解し、オブジェクトの作成、編集、の方法を学んでいくことを目的としている。また、配色やレイアウトの基本的な原理を学び、美しく機能的なデザインのあり方も理解していく。ロゴの作成、チラシ、ポスターのデザインといった実際的な課題を通して、様々な場面で有効に活用できる知識・技能を修得していく。	
		ソーシャルメディア活用Ⅰ（写真）	ソーシャルメディア活用では、SNSを中心としたWeb上に情報を提案するためのコンテンツ作成の手法を学ぶことを目的としている。ソーシャルメディア活用Ⅰでは効果的な写真の撮影テクニックを学修するとともに、ペイント系のソフトウェア（Adobe Photoshop）の基本操作を確認しながら、ラスターイメージの特徴を理解し、画像の補正、画像の合成・加工といったコンピュータによる画像編集の方法を実践的に学んでいく。	
		ソーシャルメディア活用Ⅱ（動画）	ソーシャルメディア活用では、SNSを中心としたWeb上に情報を提案するためのコンテンツ作成の手法を学ぶことを目的としている。ソーシャルメディア活用Ⅱでは、映像コンテンツの制作過程をワークショップ形式で学修していく。グループでCM映像の企画・立案、撮影、編集の行程を体験することによって、コンピュータによる動画編集の方法を実践的に学んでいく。コンテンツ制作のワークフローを理解することで、映像による表現を様々な場所に応用できるようになることを目指す。	
		スタジオA（空間・情報デザイン）	スタジオAでは、ファッションやインテリアといった身体空間に関するテーマから周囲の人々や地域社会に便益をもたらすプロジェクトを企画・立案し、立ち上げたプロジェクトの完遂を目指す。あらかじめ解の設定されているわけでない問題・課題をよりよい解決に導くために、これまでに「ライフスタイル学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「スタジオ入門」をはじめとした学科の授業で身に付けた知識・技術・能力を活用する。また、学生同士、学生と教員、さらには学外の支援者との協力のもと、最大限の努力を惜しまない態度、最後まで諦めない姿勢が必須となる。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	食品開発・マネジメントの科目群	化学	食物の摂取、運動、呼吸などなど、私たちの暮らしは様々な化学反応によって支えられています。この授業では、ライフスタイルを学ぶにあたり、より実践的な視点で化学を考えます。原子の理解から始め、身の回りの事象を化学的に見て考える力を身に付けます。 [学修内容] ①物質とは何かを理解します。②原子の構造を理解します。③原子の性質と電子配置の関係を理解します。④中和反応を理解します。⑤見の周りの有機物質を理解します。	
		生物学	大学で学ぶ栄養学・食品学では、生物学は必須です。高校では扱わない、より専門的な知識が必要です。本授業では、より栄養学・食品学に近い実績的な生物学を学びます。 [学修内容] ① 生物を理解する、細胞(原核細胞、真核細胞、植物細胞）の違い）② 三大栄養素の糖質、脂質、たんぱく質を理解する、③ ビタミン、ミネラル､水の役割を理解する、④ 遺伝子について理解する、⑤ 代謝（特に糖質の代謝）を理解する事により、栄養素の役割を知る。	
		食品学	食品を理解するのは、化学、生物学などいろいろな分野の知識が必要です。それらの知識をまず身に付け、それを基に知識を積み上げ、原理を深く理解します。様々な食品成分とその特徴を学びます。さらに食品の安全性を知るために、食品に含まれる毒素やその特徴、また、調理過程における食品の変化と安全性について学びます。 [学修内容] ① 食品に関して、科学的な視点で理解できる。② 食品毎の特徴を科学的に理解できる。③ 調理に関しての安全性を理解できる。	
		食品学実験	食品の一般的な成分分析の方法と原理を理解し、その過程で基本的な器具の正しい使用法を学びます。（ビュレットによる滴定、ピペットなどの正しい使用法）さらに、実験の原理を理解し、円滑に実験出来る方法を身につけます。 [学修内容] ① 講義で得た知識を利用して、原理を理解する。（生物学、化学の基礎知識が必要）② 原理を理解し、失敗しても、その理由が理解出来る。③安全に器具、試薬を取り扱い事が出来る。④失敗した場合にその理由が理解できる。	
		フードスペシャリスト論	栄養面だけでなく、食の本質が「おいしさ」「楽しさ」「おもてなし」にあることを考えます。この3つをしっかり学び、食に関する知識と技術を身に付けた「食」の専門家がフードスペシャリストです。食品に関する知識や調理操作による食材の組織・物性、栄養価、生体利用性、調理機能性の変化に関する知識が求められます。さらに、洗練された感性と基礎的教養（安全性・食環境）も必須です。 この授業では、フードスペシャリストが有すべき考え方と知識そして役割について概説します。	
		栄養学	栄養の基礎的な知識を身につける事を目的とする。糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの各栄養素の働きや代謝、消化・吸収および生理的な機能（過剰・不足等）に加え健康と食生活の関わりを各年齢に置けるライフスステージごとに理解し、それぞれに対応した栄養、食生活のありかたを学ぶ。 [学修内容] ① 日本の栄養の歴史について ② 栄養素の基礎知識 ③ 体内での各栄養の代謝 ④ 病気と栄養との関わり ⑤ 年齢と栄養必要量	
		調理学	調理に用いる器具や調理の手法、食品の調理方法等について学ぶ。調理を化学的に理解する事により、種々の食品の特性を生かして健康的な料理や食文化を考える。環境面にも配慮し、食材を残さない、洗浄する際に洗剤を使いすぎないなども考えていく。 [学修内容] ① 様々な調理方法を知る。② 調理による栄養素の変化を知る。③ 素材の特徴を生かした調理方法を学ぶ。④ 調理器具の特徴を区別する。⑤ 環境問題、食物連鎖について学ぶ。	
		調理学実験	実験を通して食品の特徴を知った上で、調理のこつを科学的に会得し、様々な食品の取り扱い方と調理を理解する。食品素材の性質と調理生を理論的、実践的に確かめ、食品・調理に関する科学的な知識を身につける。 [学修内容] ① 正しく実験器具を取り扱うことが出来る。② 調理操作(温度・pH等)の違いによる調理品の色や硬さなどの変化を知る。③ 吸水・膨潤による変化が食品によって異なることを理解する。④ 食品の種類による違いについて理解する。⑤ 実験結果をきちんとまとめて文章にする。	
		基礎調理実習	食品の特性を知り、科学的な根拠に基づいた調理法を理解し、日常生活における基本的な調理技術を身につける。調理中の衛生管理から安全面にも気を配り、グループ内で協力して調理を行う作業手順を考えて、効率を図る技術も身につける。環境面にも配慮し、食材を残さない、洗浄する際に洗剤を使いすぎないなども考えていく。 [学修内容] ① 調理器具の名前が分かり、正しく使用する。② 様々な切り方が出来る様になる。③ 食材の下ごしらえや調理方法を理解する。④ 調理中に安全を心がけることが出来る。⑤ ノートを作業毎にまとめる。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	食品開発・マネジメントの科目群	フードコーディネート実習	フードコーディネートの理念を理解し、食に関するコーディネートに必要な知識、技能の修得と実践力を養うために、国内外の伝統ある料理の実習を行ったり、グループごとにメニューを考えて料理を作って試食したり、自分なりの店舗を考えたり、意見交換をして、幅広い知識を身に付ける。 『おいしさとは？』5基本味の識別認識するために、それぞれ試飲をして理解する。 [学修内容] ① フードコーディネートの理念を学び実践する。② 食文化や食育について理解する。③ 各国の料理実習とマナーを身に付ける。④ メニュープランニングについて理解する。⑤ テーブルセッティングについて学び実習する。	
		カジュアルクッキング実習（製菓・カフェ）	元々 casual とは「偶然の」という意味です。「何気ない」「さりげない」「ふだん着の」などと訳されます。このカジュアルクッキングでは、いつもの街角で、ふと見付けたふだん着のカフェやケーキ屋さんを想定します。オシャレをして食べるのではなく、ふだん着のあなたがカワイイとか、面白いを感じる気軽なランチ、スーツを作ります。 ただ、そのためには、これまで学んだ食の基礎が必須です。基礎を復習して、身近な食材をアレンジする調理法やカワイイ盛り付け方などを学びます。さりげない工夫を思い付くコツをつかみます。 [学修内容] ① 素材の性質や特徴。② 料理・お菓子作りの基本。③ 料理にあった調理法。④ レシピ工程の理解。⑤ 美しく仕上げるためのコツ。	
		食品衛生学（食関連法規）	食品を取り扱うにあたって、食品衛生に関する知識は絶対に必要です。食中毒の原因、寄生虫の種類など基礎的な食品衛生の知識を身につけ、そこに、知識を積み上げていきます。さらに、食品衛生法をはじめとする関連法規とその基本的な考え方を学びます。 [学修内容] ① 食品衛生学を学ぶ意義を理解し、その基礎を身につける。② それぞれの食中毒の特徴や発生原因を知る。③ それぞれの食中毒の予防法を知る。④ 常に新しい関連法規とその意義・考え方を知る。	
		食品衛生学実験	この実験では「食品衛生学」の授業で学んだ知識を基に、「安全性試験」や「品質管理試験」を自らできるように、必要な微生物検査法の基礎（光学顕微鏡による微生物の観察、グラム染色法、生菌数の測定法、大腸菌群の検査法、生理試験法の基礎）や分析技術を身に付けることを目的とします。実際に、食品から細菌、酵母、カビなどの分離を試み、それらを光学顕微鏡で観察するための操作方法を学びます。食品添加物の簡易検査法など、座学で得た知識を現場で応用できるようにします。	
		食品加工学	昔のヒトが試行錯誤して、作り上げてきた食品の加工技術は、すばらしい先人達の知恵がいっぱい詰まっています。昔のヒトの知恵を、現在の知識を基に説明します。食品加工実験で実際に行う内容の原理を理解することも目的とします。生物学、化学などで得た知識を活用して、原理を学びます。こつを科学的に解明して、誰でも分かるようにします。 [学修内容] ① 先人の知恵を現代の科学で解き明かし理解する。② 何故、そうなるのか､何故出来るのかについて原理を知る。	
		食品加工学実験	現在では、商品として購入することが多い、アイスクリーム、ヨーグルト、チーズ（等電点沈殿を利用したもの）、コンニャク、豆腐、納豆、甘酒、ビーフジャーキー、うどんなどを実際に台所で手に入る材料道具を用いて作る。その時、条件を変えて、何故上手く出来ないのか、何故上手く出来るのかについて考察する。 食品加工学などで得た知識を、実験を通して再確認し、理解を深める。 [学修内容] ① 講義で得た知識を利用して、原理を理解する。② 実験の原理を理解し、失敗しても、その理由が理解出来る。	
		世界の食文化	食は日常的な行為です。ヒトが生きていくうえで生命維持に直接繋がる行為です。食文化は身近であるため、自分自身の習慣や考え方が、全世界共通で普遍的と思い込みがちです。ただ実際は、地域の気候や風習によって大きく異なります。この違いを学び感じることは、新しい食に出会う楽しいことであり、他者理解・異文化理解につながる大切なことです。 この授業では、各食品の文化、異文化との比較、行事、郷土の料理、菓子などを通じて異国の食文化を学びます。 [学修内容] ① 各国の食文化の形成、日本食への影響を学ぶ。② 食品から食文化を学ぶ。	
		地域と食文化	キャンパスがある愛知県あるいは岡崎市を中心に、地域の食文化を学ぶ。風土、文化、農業を理解し、食文化との関係を考える。郷土料理や菓子の文化を、生まれた背景や異文化との比較などを通じて食文化を学ぶ。 [学修内容] ① 郷土料理や菓子、調味料を学ぶ。② 地域の風土、文化、農業を学ぶ。③ 地域の食文化の変遷を学ぶ。④ 地域の年中行事と行事食を調査する。⑤ 個々の出身地域の食文化を再認識し、比較する。	
		食品機能論	食品には、多様な機能のあることが知られている。それらは、一次機能である栄養機能、二次機能である嗜好機能、三次機能である生体調節機能の3つに大きく分けることができる。 この授業では、これまでに学んできた一次・二次の機能に加え、三次の機能の基礎を学び、三つの関連を理解する。三次機能である生体調節機能は、生活習慣病等に対する食による一次予防に重要である。これを学び、理解することは、保健機能食品の理解にもつながる。	

授業科目の概要				
（家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	食品開発・マネジメントの科目群	商品開発	食品開発は、企業の発展に大きく関与し、重要な役割を担っている。具体的には、消費者のニーズを敏感にキャッチし、満足感を与える商品を企画し、世に生み出す仕事である。この授業では、マーケティングの基礎、食品・サービス企画の基礎、商品開発のコミュニケーション・プレゼンテーションの基礎を、学ぶ。実践的な活動としては、食品の特性を活かした商品の企画・開発、プレゼンテーションを行う。そのスキルと実践力の修得を目指す。	
		健康と栄養	健康と栄養、さらに食との関係を、トータルに捉えます。私たちが健康な生活を営むために何が必要なのか、どうすれば良いのか、その方法論等を学びます。 また、生活習慣や社会、環境など様々な視点から健康づくりと食・栄養の関係について考えます。 さらに、近年では、私たちの健康づくりにとって、運動と栄養の関係が注目を集まっていることを踏まえて、健康の維持・増進につながること、運動と休養，栄養の組み合わせ方などについても学びます。	
		スタジオB（食開発）	食に関わる道具・機具が整備された食を創造するスタジオです。1年次、2年次など、これまでに学んだ食・栄養についての知識・技術を総合して、皆さんの食を創造します。 誰かの真似から始めてもかまいません。自分が食べたい物から始めるのも良いでしょう。皆さんの中のこだわりが、おそらく物語の始まりになるでしょう。人を巻き込み、地域を巻き込み、いろいろな課題解決に役立つ何かが生まれるかもしません。そんな食開発工房になるように、私たち教職員との協同学修を楽しんで下さい。	
	ビジネス・地域活性の科目群	保育論（実習及び家庭看護を含む。）	人間の健康的な成長を考えたとき、胎児期からの心身の発達、生活習慣、環境、社会制度や施策など様々な面から理解するとともに、現代社会における育児上の課題について現状をふまえながら対策について考える。 [学修内容] ① 子どもの心身の発育・発達過程や子どもを育てることの意味を理解する。② 現代社会の子育て支援について学ぶ。③ 乳幼児の発達をふまえ、人的環境としての保育・教育者として役割を考える。	
		ジェンダー論	多様なセクシュアリティ・ライフスタイル・恋愛・結婚・出産・子育て・介護・労働などの諸問題について学び、広い視野と柔軟な思考を身につける。現代社会におけるジェンダー問題について知り、ひとり一人が身近な生活の中からジェンダー問題をとらえ、理解を深めることにより、地域や社会の課題解決に貢献する力を習得する。 [学修内容] ① ジェンダーの歴史を知り、社会の変化を認識する、② ジェンダーの基本構造を理解する、③ 現代社会におけるジェンダー問題を知る、④ ジェンダー問題を自分に引き付けて考察する、⑤ 自立した自分の将来像を描く。	
		消費生活論	消費生活、特に消費者問題・コンシューマリズムに関わる基本的事項、知識を学ぶ。消費者問題は誰もが生活していく上で、関係をもたざるをえない問題で、大変、身近な問題と言える。今後の生活にも役立つ内容となる。まず消費社会の今日的課題全般について確認した上で、消費者問題に関わる基本的事項、知識を概観する。続いて日々の消費者問題の報道を紹介し、経済学の考え方とどのように関連性があるかを説明する。	
		マーケティング	受講者の生活の中で、身近にふれることのできる企業のマーケティング活動の事例（テレビのコマーシャル、インターネット、ブランド、消費財製品、商品モニターなど）を素材にしながら、マーケティングの基本やその考え方を学ぶ。 [学修内容] ①マーケティングの意味と事例を学ぶ。②マーケティングの基礎知識を得て、その考え方の基本を知る。③受講者が将来、生活者、企業人等の進路において、役立つマーケティングの基礎知識を獲得する。	
		生涯学習概論	人が生きていくため、自らの尊厳のため、社会を変えていくためなどの基となる生涯学習（学校教育・家庭教育・社会教育における学習を含む）の基本的な知識を身に付ける。そのために、生涯学習と社会教育の歴史・発達段階に応じた生涯学習について理解し、生涯学習の必要性を明らかにする。 [学修内容] ① 生涯学習の大切さや必要性について理解する。② 自分らしく生きるための自分自身の生涯学習計画（設計）を立てる。	
		地域ブランド論	受講者自身が問題意識や関心を持つ、国内外のさまざまな地域の文化的特徴を研究の対象とする。地域の発展を念頭に、具体的なブランドを検討する。 前段で、地域文化や地域社会の課題へのアプローチ方法を学ぶ。その後、受講者自身が調査・分析・考察する。これにより、地域の課題を把握し、その解決を目指す。研究は、グループもしくは個人で行う。途中に、2回あるいは3回ほど、成果報告・発表を実施する。研究の内容や進め方、受講者数により、プレゼンテーションの実施回数は変動する。	
		地域の暮らしと生産	キャンパスがある岡崎は、徳川家康が生まれた街で、昔から熱い人がたくさんいます。今、熱く活動されている方々をお迎えし、お話を伺い、あなたのこれからを考えます。お話をいただくのは、「市内で飼料の卸や卵の販売をされている会社の社長」、「キャンパスがある長瀬地域の活性化にこだわる農家」、「純国産鶏の『岡崎おうはん』を扱うオムライス店」、「まるや八丁味噌の社長」、「岡崎市を対象とする月刊のタウン誌を発行している出版社の社長」、「市内の空き店舗撲滅を目指す岡崎市役所の職員」などです。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ビジネス・地域活性の科目群	家庭電気・機械及び情報処理	私たちの周りには、色々な道具があふれています。道具は、私たちの生活を豊かにしてくれますが、原理や仕組みなどが分からない場合もしばしばです。原理など知らなくても道具は使えますが、この理解不足が思わぬ事故を引き起こすこともあります。 この授業では、身の周りにある色々な道具を賢く使いこなせるようになることを目標として、私たちの生活を支える家庭電化製品、機械、情報機器の原理・仕組みを紹介すると共に、その本来の役割と正しい使い方を考えていきます。	
		データ解析法（統計学を含む）	身長を始め、体重や降水確率、成人男性の一日のエネルギー摂取量など、私たちの身の周りには、様々なデータが存在します。これらのデータは、私たちにいろいろなことを語りかけ、教えてくれるのですが、どのように耳を傾ければ良いのでしょうか。 この授業では、データをグラフで表すExcelのテクニックから始まり、統計量としてよく耳にする平均・標準偏差・データ数の意味や、推定、検定など、統計学の基礎を学修します。	
		リサーチリテラシー	大学生の学びにおいて必須のスキルであり、卒業研究（卒業論文の執筆）で求められる「リサーチ＝調査研究」の能力を基礎から身につけることを目的とする。講義とワークショップ形式でおこなう。 研究テーマの出し方、「問い」の立て方、文献資料の探索方法や批判的な読解方法、レポートの書き方などを学ぶことで、なにが問われているのかを判断し、課題にたいして自発的・積極的に取り組み考察する思考を養う。また、考察した内容をレポートやプレゼンテーションでアウトプットする力も身につける。	
		プレゼンテーション基礎	現代では、いかなる分野・場面においても、自らの意見や主張を明確に伝えることが求められている。この授業では、この伝える発信力を、大きくプレゼンテーション能力と呼ぶ。大学の4年間に設置されている他の多くの授業でも、たくさんのプレゼンテーションの機会が設定されている。 この授業では、単なるPowerPoint操作の習得を目指していない。指示されたテーマに従って、情報を集取し、自分自身の意見を組み立てる。それを正確でかつ豊かな日本語表現により、論理的なスピーチや文章に仕上げる。これらの課程を通して、プレゼンテーション能力の習得を目指す。	
		ビジュアルプレゼンテーション演習	この科目では、ビジュアルプレゼンテーションの中心となるスライドの作り方を学修する。ビジュアルプレゼンテーションでは、スライドのデザインやそこに盛り込む視覚的なコンテンツ（内容）が重要となる。全体の構成、レイアウトや配色によるビジュアルアイデンティティの確立、写真や文字、グラフ、タイヤグラムの扱い方、ムービーやアニメーションの効果的な使用法を学ぶことによって、受け手側の理解を高めるプレゼンテーションを作ることを目指す。	
		イベントプロデュース演習	イベントプロデュース演習では、イベントの企画・アイデアの発想法、企画書の作成の方法、マーケティング手法、集客方法、そしてイベント本体の運営方法までひとつのイベントが完成に至るまでの一連の過程に必要な知識・技術を体験的に学修していく。これにより、スタジオのプロジェクトでイベントを実施し、その目標を達成するために必要となるノウハウを学ぶ。また、その中で、イベントにおけるプロデューサーの役割についても同時に理解していく。	
		流行論	わたしたちの日常生活においてなくてはならないメディアの機能や性質と、メディアによって成立する現代日本文化の特徴を学ぶことを主眼とする。メディア研究の理論を参照しながら、メディアがわたしたちの社会において存在する意義やメディアによってもたらされる生活のあり様を、多角的に考察する。メディアの基本的な特徴を学び、メディアに描かれる表現（メッセージ）を読み解くことによって、メディアに囲まれた現代社会を生き抜くための知識を身につける。	
		サブカルチャー論	サブカルチャー論は日本のポピュラー文化を代表するコンテツの一つであるマンガを対象に、流行や社会の価値観とメディアの関わりや変遷について学ぶことを目的とした科目である。マンガは単純な娯楽メディアではなく、明治期から現在にかけて日本社会に生きる人びとの生活の様子や価値観をさまざまな形で映し出してきた、一つの「文化」である。授業内では、マンガ表現とその社会的背景を考察することで、時代の流行や特徴を考察していく。	
		スタジオC（地域活性）	勉強や研究を意味する英語の「スタディ」の語源は「ステュディオス」というラテン語で、もともと何かに熱中、集中している状態を示していたそうである。その何かに熱中、集中し、夢中になった状態で作業をおこなう場が「スタジオ」となる。この「スタジオC」も学生自身が、あるいは地域の人たちや教員が投げかけた問題・課題に夢中になって取り組み、答えを見つけていく『場』として設定されている。「スタジオC」では、地域活性、まちづくりに寄与するイベントの開催を目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育原理	教師の資質能力の育成を目指し、教育全般に関わる基本的概念・内容を理解させる。実際には、人間（子ども）の発達、学校教育における学習と指導、外的環境を中心に扱う。また、毎授業の進め方は基礎的内容の理解を土台として行い、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り込んで、実践的な理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていく。 [学修内容] ① 教育全般に関する基本的概念・内容を理解する。② 基礎的内容の理解を土台として、実践的な内容を通した具体的な学習活動（体験）を行う。③ 話し合い活動や文章記述等の言葉による表現活動を通して、自他の考えを深め合う。	
	教職入門	教職入門では、現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての知識を身に付け、教職への意欲を高め、さらに教育職としての適性を判断し、自らが選択すべき教師像を創造することを目指す。教員を目指すことはこの社会の未来を支えることにつながるという課題意識を持たなければならない。そこで、この授業を通して、自らは将来何をすべきか、どうあるべきかを考える主体的、積極的、協働的な学び手になることを目指す。	
	教育制度論	現代日本の教育法の成り立ちを概観しながら、現行の教育制度の意義と問題点を考察する。自らの体験や身近な教育問題等と照らし合わせながら、参加者の理解を深めていく。 [学修内容] ① 教育制度に関する基礎的な知識についての説明を聞き、その仕組みや働きを理解する。② 近年の教育政策の背景を知り、その意義および問題点について個人またはグループで検討を行う。③ 教育制度に関する諸問題についての自分の考えを言語活動を通して表現する。	
	発達心理学	本科目では、児童生徒の心身の発達の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 [学修内容] ① 児童生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を学ぶ。② 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学ぶ。	
	教育心理学	児童生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 [学修内容] ① 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を学ぶ。② 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて学ぶ。③ 児童生徒の心身の発達を踏まえ，主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。④ 児童生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を学ぶ。⑤ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学ぶ。	
	特別支援教育論	発達障害や軽度の知的障害をはじめとする種々の障害により、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が対象である。 彼らが、通常の学級に所属する場面においても、学習活動に参加し、学習の実感や達成感を持続し、生きる力を身に付けるためには、彼らの学習上・生活上の困難を充分理解する必要がある。そして、個別の教育的なニーズに対して、他の教員や関係機関と連携をとり、組織的に対応してくことが重要である。この授業では、彼らへの支援教育に必要な知識や手法を学習する。	
	教育課程論	教師の資質能力の育成を目指して、教育課程・カリキュラムに関わる基本的な概念・内容を学習する。 総論では、日本の教育課程や学習指導要領の歴史的な変遷と、その特徴、ならびに諸外国の事情を取り上げる。各論では、教育課程の周辺的な要素と、実際の学習活動などを取り上げる。 毎週の授業の進め方は、基礎的な内容の理解から始まる。必要に応じて、ペアワークやグループディスカッションを導入し、実践的な理解へと発展させる。	
	家庭科教育法Ａ	高等学校の家庭科教員に必要な知識と、より実践的な指導方法を修得することが、この授業の目標である。まず、家庭科の教科としての内容、特徴、種々の指導方法を学習する。そして、学習指導案の作成と教材研究を行う。 [学修内容] ① 学習指導要領「家庭」と専門教科「家庭」の概要を学習する。② 教員として、家庭科の何をどのように教えたいか、生徒に何を残したいかを考える。③ 学習指導案を実際に作成し、家庭科の授業を創造する。	
	家庭科教育法Ｂ	高等学校の家庭科教員には、人々の日常生活を、衣・食・住の面から支援することのできる人材の育成が求められます。そのためには、高等学校家庭科の教育目標と、育成を目指す資質・能力を十分理解しなければなりません。学習指導要領に示された学習内容については、背景となる学問領域と関連させた深い理解が必要です。 この授業では、高等学校家庭科の具体的な授業場面を想定し、深い理解を体験します。さらに、これまでに学んだ様々な学習指導理論を踏まえて、実践的に授業設計の手法を学びます。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	家庭科教育法C	中学校の技術・家庭科において、家庭科教育に必要な知識と指導方法を学習する。 家庭科の対象である私たちの生活は、多面性を持ち、様々に変化し多くの現代的課題を抱えている。その理解に立ち、家庭科教育の意義、中学校での家庭分野の目標、指導内容、指導方法、学習評価等を、実践的な模擬授業を展開して学習する。 模擬授業は、教材研究の大切さ、授業運営の難しさ、そして、綿密な授業準備が生徒の理解につながることを気付かせる。教科指導ができる教師養成を目標としている。	
	家庭科教育法D	家庭科教員として様々な方法で授業が考案できるようになるために知識と手法を身につける授業である。色々な家庭科の授業実践を研究し、自分で考案した模擬授業の指導案を作成、さらに実際に指導案に沿った授業を行い、学生同士で批評を行うことにより、授業が指導案に示された通り円滑に行われ、目的を授業時間に到達することができるような知識と技術を修得する。授業形式として講義だけの形式に捕われず、授業形態がアクティブラーニングでおこなえるように工夫を凝らして授業が実施出来るような力量を身に付ける。	
	道徳教育の理論と実践	教師に求められる資質能力の育成を目指し、道徳教育に関わる基本的概念ならびにその歴史・目標・内容を理解させる。その実践的内容については、学習指導要領を基本とした、地域・学校の実態に即した的確な指導計画や指導方法に基づく学習指導案づくりや模擬授業の検討等に関する体験学習やグループワークを通して行う。なお、毎授業の進め方は基礎的内容の理解を土台として行い、必要に応じて適宜話し合い活動を取り入れて、「主体的・対話的で深い学び」を志向する実践的思考の向上、理解力の習得、主体的な態度や基礎的能力の育成につなげていく。	
	総合的な学習の時間の指導法	教師に求められる資質能力の育成を目指し、総合的な学習の時間に関わる基本的概念ならびにその意義・目標・内容を理解させる。その実践的内容については、優れた教育実践を意味を学んだり、他教科との関連を考えたり、指導と評価の一体化に基づく年間指導計画や単元計画を作成したりする体験学習やグループワークを通して行う。なお、毎授業の進め方は基礎的内容の理解を土台として行い、必要に応じて適宜話し合い活動を取り入れて、「主体的・対話的で深い学び」を志向する実践的思考の向上、理解力の習得、主体的な態度や基礎的能力の育成につなげていく。	
	特別活動の指導法	教師に求められる資質能力の向上を目指し、全教育課程における位置づけをふまえた特別活動に関わる基本的概念ならびにその意義・目標・内容を理解させる。その実践的内容については、評価や意思決定、家庭・地域との関連等を意識させ、学級活動や学校行事に関する指導計画づくりとその相互発表・討議を行う。なお、毎授業の進め方は基礎的内容の理解を土台として行い、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れて、「主体的・対話的で深い学び」を志向する実践的思考の向上、理解力の習得、主体的な態度や基礎的能力の育成につなげていく。	
	教育方法論	教師の資質能力の育成を目指し、教育方法とその技術に関わる基本的概念・内容を理解させる。その実践的内容については、学習指導案づくりや授業記録の読み取り等の体験学習を通して行う。また、毎授業の進め方は基礎的内容の理解を土台として行い、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り込んで、実践的な理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていく。 [学修内容] ① 教育方法とその技術に関する基本的概念・内容を理解する。② 基礎的内容の理解を土台として、実践的な内容を通した具体的な学習活動（体験）を行う。③　話し合い活動や文章記述等の言葉による表現活動を通して、自他の考えを深め合う。	
	生徒指導論	生徒指導は，一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。生徒指導提要では従来の消極的、問題解決的なアプローチではなく、積極的、開発的な（問題を起こさせない、問題を未然に防ぐ）アプローチをこれからの生徒指導のあり方と考えている。 本科目では、この新しい生徒指導の方向性について学ぶとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。	
	教育相談（カウンセリングを含む。）	学校教育との関わりの中で、児童・生徒や保護者を正しく理解し、援助・支援する具体的な方法としてのカウンセリング技術を学び、関係性の中での援助アプローチの実際を体験的に学ぶ。一人一人の児童・生徒が学校生活で出会うさまざまな問題の解決を援助し、自己理解・他者理解を深め、他者との信頼関係を構築する力を養うために、(1) 直接生徒を援助するカウンセリング、(2) 生徒の教師や保護者や学校に働きかけるコンサルテーション、(3) 心理アセスメントについて、臨床心理学の基礎の上に理論を学び具体的な教育相談の方法について理解する。 さらに不登校・いじめ・非行・発達障害、虐待の現状把握に対して、独自の問題意識を感じ、自らの考えや対処方法を発想できる力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要 （家政学部ライフスタイル学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	進路指導論（キャリア教育を含む。）	進路指導は，生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本科目では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	
	教育実習指導	教育実習を有意義なものにするには、入念な準備、教育実習の内容や方法の理解、実習後の反省が不可欠であり、そのために事前・事後指導が行われる。本科目は4名の教員が各専門に分かれて指導する。 各教員の指導内容は次のとおりである。実習前は、１）教育実習の意義や概要および心構えについて学修する。２）生徒指導を復習するとともに教育実習生としての立場を理解する。３）被服分野の内容を復習し、指導する立場から、重要な点をまとめる。被服分野の実習授業に備えて、教材を作成して、ポイントを確認する。４）家庭科全般についての教材研究と指導方法および評価方法を検討する。 教育実習後は、各自の体験発表、反省記録・実習日誌・指導案の提出、礼状送付などについて指導する。各自の課題を明らかにして、後期の教職実践演習に備える。	
	教育実習Ａ	教育実習は、教職課程履修の総仕上げであり、高校の教育現場に赴き、大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して生身の生徒に実際に教える体験を通して、学校教育の実際を知るとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。本学では、高校の免許のみ取得する者は、教育実習Ａ（２単位）を履修するよう定めている。 なお、学内での事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に１単位設けられている。	
	教育実習Ｂ	教育実習は、教職課程履修の総仕上げであり、中学の教育現場に赴き、大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して生身の生徒に実際に教える体験を通して、学校教育の実際を知るとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。本学では、中学の免許を取得する者は、教育実習Ｂ（４単位）を履修するよう定めている。 なお、学内での事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に１単位設けられている。	
	教職実践演習（中・高）	教育実習を終えた段階で、各自が「教職履修カルテ」と「自己評価シート」に基づき、教職課程の科目の修得状況および教職実践能力を振り返り、家庭科専門および教職専門の分野において、自分に不足している具体的・実践的な課題を明確にし、卒業するまでにその補充を行う。 [学修内容] ① 教員として最低限必要な知識・技能を修得したかどうかを確認する。② 教科指導、生徒指導を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力が身についたかどうかを確認する。③ 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持っているかどうかを確認する。	
	ボランティア活動（介護等体験実習）	中学校教諭としての知識と技能を合わせもち、それらを中学校で主体的に活用することで、生徒の成長を支えることができるようになるために、２年次（２日間・特別支援学校）と３年次（５日間・社会福祉施設）で事前指導及び事後指導、学外実習を行う。 [学修内容] ① 介護等体験実習の目的を知り、実習の意義を理解する。② 障がい者福祉及び高齢者福祉ついて学び、その基本概念を理解する。③ 多様なコミュニケーションの方法について学び、適切な方法を適用する。	

学校法人安城学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度		入学定員	編入学定員	収容定員
愛知学泉大学				
家政学部				
家政学科	管理栄養士専攻	80	―	320
	家政学専攻	40	―	160
	こどもの生活専攻	70	―	280
現代マネジメント学部				
現代マネジメント学科		0	―	0
計		190	―	760
愛知学泉短期大学				
食物栄養学科		70	―	140
幼児教育学科		120	―	240
生活デザイン総合学科		130	―	260
計		320	―	640

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
愛知学泉大学				
家政学部				
管理栄養学科	80	―	320	学科設置（届出）
ライフスタイル学科	40	―	160	〃
こどもの生活学科	70	―	280	〃
現代マネジメント学部				
現代マネジメント学科	0	―	0	平成31年4月学生募集停止
計	190	―	760	
愛知学泉短期大学				
食物栄養学科	70	―	140	
幼児教育学科	120	―	240	
生活デザイン総合学科	130	―	260	
計	320	―	640	

補足資料